

2007 FCJ シリーズ第 7-8 戦

■ 6月14日 フリー走行1日目 WET

前回までのレースで一通り各サーキットでレースを終え、今回の富士スピードウェイでも2回目のレースとなります。自分もそうなのですが、もちろん他のドライバーも学習してくるので、普段よりも更に接戦なレースが予想されました。

木曜日のフリー走行はWETコンディションだったのですが、僕は1本目の走行は前回のテスト中のペナルティーから走ることが出来ず、2本目からの走行になりました。走り始めてすぐは、とりあえず慎重にグリップするラインなど探しながら走行し、そこから徐々にペースを上げて行きました。このサーキットは外がアスファルトで舗装されているので、もしコースアウトしてもコースに戻って来れることから、ブレーキングなども積極的にチャレンジしていきました。結果としてはどのコーナーも1番スピードが落ちるところでのボトムスピードは高いのですが、その性でそこから加速していくところが少しずつ遅くなっているのが原因でした。

けれどビックリしたのはDRYコンディションだけではなく、WETコンディションでもトップから1秒以内に20人弱のドライバーが詰っていたので、本当にちょっとしたことで順位が入れ替わるなあと実感しました。

■ 6月15日 フリー走行2日目 DRY

この日の天気予報は雨の予報だったので、前日に悪かったところを直そうと考えて来ていたのですが、予報とは違い朝からDRYコンディションでの走行となりました。全車一斉にNEWタイヤで走り始めて、始のうちはかなり上位の方にいたのですが、後半に入ると周りがタイムをあげてくるのは逆に、自分は中々タイムをあげることが出来ませんでした。

結局トップとの差は0.7秒くらいだったのですが、その内のほとんどがセクター3と呼ばれる「上りの低速コーナーが連続した区間」で差が出来ていました。この区間では頑張ってもブレーキなどで突っ込みすぎると、立ち上がりが悪くなり、余計なタイムに差が開いてしまうコーナーで自分ももっとも苦手とするような区間でした。そこを攻略するためにブレーキは全然行かず、立ち上がりだけを重視した走り方など、いろんなことを試してみたのですが、結局は全てがバランスで「ブレーキも全然行かないわけには行かず、ただ立ち上がりも重視しなければいけない」みたいな感じでした。

その他の高速コーナーなどはトップと比べてもそんなに悪くない感じだったので、後は走行中のコーナーを録画してもらったビデオをホテルに帰ってからひたすら見て、そのセクター3を上手くまとめられるようにしっかりイメージトレーニングをして予選を迎えました。

■ 6月16日 公式予選 DRY

第7戦 20番手

この日も朝から完璧なDRYコンディションの中、第7戦の公式予選がスタートしました。自分はセクター3が特に苦手だったので、練習から速かった選手の後ろでその走りを意識しながら走ろうと思い、予選開始と共にその選手の後ろに付こうと思ったのですが、その選手との間に他の選手に入られてしまいました。なので結局は少しだけ距離を置いて単独で走り始め、計測1周目からアタックを開始しました。その1周目から自己ベストのタイムは更新して、続けて2周目に入り、セクター1、2と更に0.2秒タイムを縮めてきていたのですが、セクター3に入ったところで他の選手に詰ってしまい、セクター3だけで0.5秒もロスしてしまいました。その後は1周のクールラップを挟み、前との距離もしっかり開け、再度アタックに入ったのですが、同じようなタイムは出せても、それを上回るタイムは更新することが出来ずに結局20位という順位になってしまいました。

第8戦 13番手

1回目の予選の失敗もあったので、2回目はしっかりと前との距離をあげ、予選後のインターバルの間にタイヤの内圧も調整して、アタックを開始しました。開始直後は中々タイムをあげることが出来なかったのですが、ここで焦らずに前日のイメージトレーニングどおりに走ろうと、ブレーキで行かなければいけないところはしっかり突っ込んで、セクター3はブレーキではあまり頑張らずに立ち上がり重視で走りました。その結果周りが1回目に比べ遅くなっている中、自分は1回目の予選タイムを上回ることができ、13番手という順位で2回目の予選を終えました。けれどこのアタック中にもシフトミスをしてしまっていて、この2回目の予選で後0.1秒速いタイムを出せていたら8番手くらいまで順位を上げられるくらい混戦だったので、本当にちょっとしたことも気を緩めずしっかり集中し続けなければいけないなど実感しました。0.1秒というタイム差以上に決勝のグリッドが8番か13番かでは凄く大きな違いになるので改めて予選の大事さも再認識しました。

第7戦 決勝 15位 DRY

この日は朝から天気もよく、午後には気温、路面温度共にかなり上昇した中、決勝レースがスタートしました。

前日のテストでもここまで暑くはなかったため、タイヤの内圧は過去のデータなどから照らし合わせて決めていきました。セクター1、2の高速コーナーなどでは内圧次第でマシンの挙動がかなり変わるため、慎重に合わせていきます。

そんな中フォーメーションラップがスタートして、しっかりタイヤを温めていき、シグナルに集中します。

シグナルレッド・消灯・スタート！

タイミングも良く、1コーナーまでに2、3台をパス！そしてそのままバックストレートエンドのブレーキでも更に2台をパスして、1周目を15位で帰ってきます。そして自分の得意な100Rと言うコーナーで前のマシンに追い付き、続くヘアピンでインを刺し14位に浮上。そのまま前の集団に追い付き後ろについて、前の車と自分の車がどこで差があるかを見極めながら勝負を仕掛ける場所を探します。その結果、バックストレートエンドのブレーキングで仕掛けることになり、チャンスを伺っていました。そしてレースも中盤に入った7周目、ヘアピンの立ち上がりからスリップに入ることができ、インを刺そうとしたところ、前の選手も更に前の選手に仕掛け、自分は一旦引いたのですが、続く13コーナーで前の車がスピン。この富士スピードウェイはコースの外もアスファルトに舗装されているため、自分はコース外に避け、そのままの勢いでコースに復帰したのですが、その時に縁石でフロントアームを曲げてしまいました。それで順位的には13位まで上がったのですが、そこからはマシンコントロールが難しく、少しづつペースが落ちてしまい、最終的に15位でチェッカーとなりました。

今回のレースはアームを曲げてしまったことがペースに影響はしていると思うのですが、そういう状況の時にこそもっと集中して走らなければならなかったにも関わらず、自分はそこから更に後ろっぽかりを気にしてしまい自分でペースを乱していたなど実感しました。そういう面もこれからの課題として、日曜のレースに挑みたいと思います。

■ 6月 17日

第8戦 決勝 22位 DRY

この日は路面コンディションは完璧な DRY だったのですが、天気の方は曇り空で前日ほどは気温、路面温度とも上がらない感じでした。そこでそれも計算にいれて、内圧を合わせ前日のレース内容のことも考えながらグリッドに向かいます。そしてフォーメーションラップではしっかりタイヤを温めながら、シグナルに集中します。

シグナルレッド・消灯・スタート！

今回は少しくラッチミートが早すぎて、1コーナーまでに2台ほどパスされてしまいました。けれどその後はヘアピンで1つ順位を上げ、続くバックストレートエンドのブレーキングでは3台並んでいる更にイン側にマシンを滑り込ませ、一気に11番手まで順位を上げて1周目を終えました。そしてそのまま前の集団についていき、3周目のバックストレートエンドで前の車のインを刺し、2台横並びのままシケインを通過。次の13コーナーでやっと前に出て、10番手までポジションを上げます。そこからはまた前の車に追い付くことに集中します。そして徐々に自分のペースも上がったことで、後ろの車も引き離し、また前の車に追い付いたので、どこで仕掛けるか狙っていた6周目、なんと僕にドライブする一のパナルティーが…。

間違いではないかと1周確認したのですが、次の周にドライブスルーパナルティーを消化して、またコースに戻った時には24番手まで順位は落ちていました。けれど昨日のメンタル面のこともあったので、走っている最中は「ただ速く走ることに集中しよう」と思い、絶対に諦めないで前の車を追い続けました。そしてレース後半に入りタイヤも大分タレてきたのですが、その分丁寧なドライビングで自己ベストを更新しながら走り、16周目には前の車に追い付きヘアピンでパス。そこからも安定したタイムを刻みながら最終的には22位でチェッカーとなりました。

ドライブスルーパナルティーの原因は「スタート5分前の時点でメカニックさんはマシンに触れてはいけない」と言う規則があるのですが、ちょうどその5分前の放送をしているときに緩んだミラーを締めなおしてもらっていて、それがパナルティーにひっかかったと言うことでした。。スタート前にもしっかり閉めなおしてもらったのですが、新品のミラーだったせいか、グリッドに着いたときにはまた緩んでしまっていました。

今回のレースはレース中にも少しづつペースもよくなり、苦手だったセクター3のコツも前の選手を追いかけられる中でつかみかけていて、更にポイント圏内での走行だっただけに余計悔しかったです。けれど、これも全部含めて自分の責任なので、ドライバーとして、走るだけでなく、規則なども含めてしっかり学習していきます！

今回も自分のミスで、最終的にはポイントすらとれずに終わってしまいました。沢山のスポンサー様を始め、チーム関係者の方やその他にも応援してもらっている方々の期待に応えられるような結果を残すことが出来ず、本当にすいませんでした。

しかし、走りの面では確実に掴めてきている部分があるので、その部分を更に復習して伸ばし、気持ちを切り替え、次の鈴鹿に挑みたいと思います！

これからも引き続きご指導、応援の方よろしく願います。

Team NAOKI with LE PRIX SPORT

吉田 広樹